

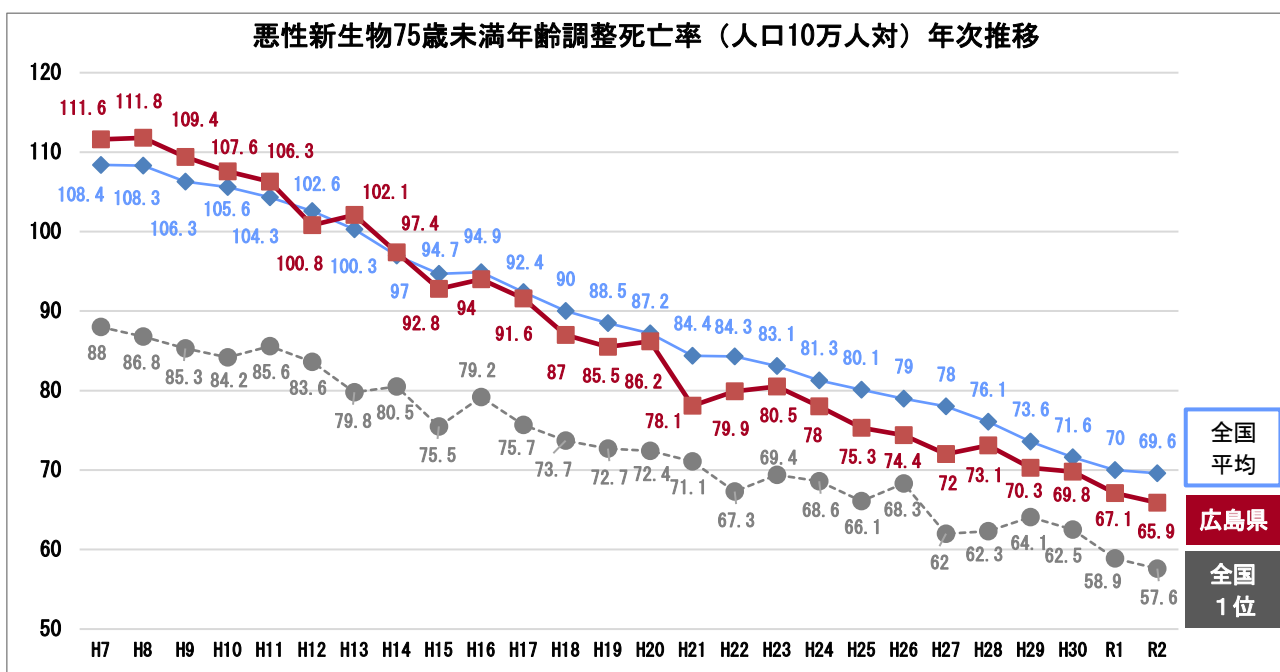
がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)の令和2年集計結果について

1 趣 旨

令和3年12月28日に国立がん研究センターから令和2年の「人口10万人あたり悪性新生物75歳未満年齢調整死亡率(以下『死亡率』という。)」が公表され、**本県は65.9人(全国13位)**であった。

(単位:人口10万人当たり人)

区分	平成12年	平成22年	平成30年	令和元年	令和2年	目標(R5)	減少率	
							20年(H12→R2)	10年(H22→R2)
全 国	105.6	87.2	71.6	70.0	69.6	—	34.1%	20.2%
広島県 (全国順位)	100.8 (27位)	79.9 (13位)	69.8 (19位)	67.1 (13位)	65.9 (13位)	58.0	34.6%	17.5%



※がんの死亡率の最も低い県:長野県(H7~H28, H30~R2), 滋賀県(H29)

2 集計結果の受け止めと今後の対応

- 令和2年の目標(63.4人以下)は未達であったものの、**死亡率は前年より1.2人減少**しており、**長期的にも着実に減少**している。
- がん対策推進計画の目標(R5:58.0人以下)達成に向け、引き続き、受動喫煙防止対策などによる「**予防**」、がんの早期発見・早期治療に繋げる「**検診**」受診率向上対策の強化、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関との連携による「**医療**」提供体制の**充実に取り組んでいく**。

【年齢調整死亡率とは】

年齢構成が基準人口と同じだったら実現されたであろう死亡率。年齢構成が異なる集団でがんの死亡率を比較するために年齢階級別に死亡率を計算し、基準とする人口集団の重みをかけあわせて算出する。

$$\text{年齢調整死亡率} = \{ (\text{年齢5歳階級別粗死亡率}) \times (\text{基準人口の当該年齢の人口}) \text{の各年齢階級の総和} \} / \text{基準人口総数}$$